

## 「壁ならどこにでも 固定できるってわけじゃないよ」

さて、地震で揺れても家具が倒れないよう正しく固定するには、どうすれば良いのでしょうか。

それには、家具が地震の揺れに対して建物と一体的に動くように柱や鴨居、壁などに固定することが大切です。

しかし、最近では、昔からの日本家屋のようにしっかりした木の柱や鴨居のある家は少なくなってきたので、壁への固定が最も一般的な家具の固定方法といえます。

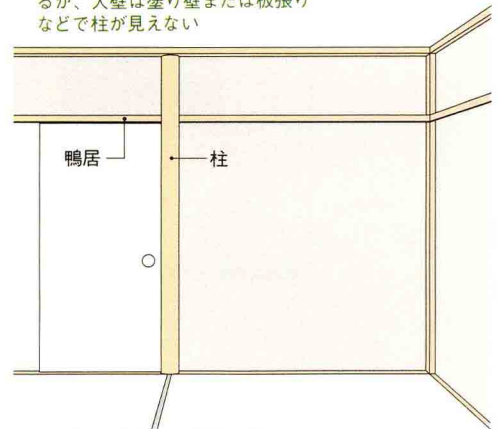
**見かけは同じでも、実は違う壁の内側**

ひと口に壁と言ってもいろいろな種類があります。

たとえば、木造の戸建住宅には真壁、大壁、2×4（ツーバイフォー）の壁(図②)が多く用いられています。また、集合住宅などにはコンクリート壁や断熱材の入った防露壁などが用いられています。そして、木造の戸建住宅でも集合住宅でも、木造軸組壁(図③)と呼ばれる木の枠のある間仕切りのための壁が使われています。

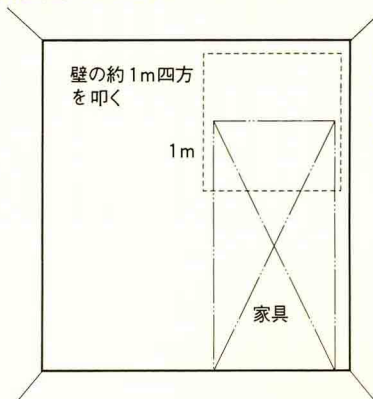
こうした壁には、家具を固定できる壁と、固定してはいけない壁があるので注意しましょう。

真壁は下図のように柱が見えているが、大壁は塗り壁または板張りなどで柱が見えない



柱がある場合は、家具固定のための金具を柱に取り付ける。柱と離れた位置に家具を置く場合は鴨居に金具を付けるが、装飾的な鴨居もあるので、工務店など専門家に相談した方がよい

### ①縦棧の探し方

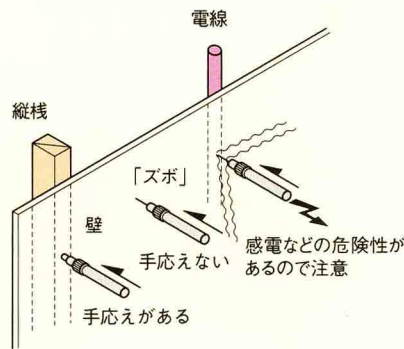


壁の約1m四方を叩く

1m

家具

壁の内側の棧を探すには、ドライバーの柄などで壁を叩いてみる。また、より正確に棧の位置を見つけるためには、下地探知用センサーやプッシュピンを活用する



**プッシュピンによる確認の方法**

堅い部分に印(★)を付けて、印2点間の距離を測定。等間隔に印があることが、チェックポイント

**ドライバーで叩いて探す方法**

「家具転倒防止等の手引き」より